

今回のイベントに関連する勝海舟の行動

安政2年(1855)

1月	23日～	勘定奉行 石河政平(従者55人)および目付 大久保忠寛(従者33人)に随行し、勝海舟(従者6人)は伊勢・大坂の海岸巡視を行うため江戸を出発。
2月	22日頃	岸和田藩岸和田城下、紀州街道沿いにあった宿屋「浮舟文右衛門」または「沖舟文右衛門」に止宿。 この時、相馬九方、岸琴泉(長太郎)に合った可能性あり。
	23日～30日	23日から晦日にかけて加太に宿泊。勘定奉行 石河政平は「柳屋善助」「網干屋吉三郎」「北川屋佐兵衛」に宿泊。 大久保忠寛は「利光平兵衛」「大坂屋平次郎」に宿泊。 勝海舟は「魚屋彦太郎」邸に宿泊。

文久3年(1863)

1月	1日	勝海舟は兵庫にて新年を迎える。 坂本龍馬、近藤長次郎、千葉重太郎らを兵庫から大坂を経由して京都に帰らせる。 午後より明石、大蔵谷を訪れ当地で宿泊。
	2日	明石を出立。朝陽船に帰船。
	3日	摩耶山に登山。
	5日	朝陽船で岸和田に向かい、上陸。岸和田にて宿泊。 小笠原図書頭長行は陸路で岸和田に到着し当地にて宿泊。
	6日	小笠原図書頭長行に従い岸和田付近の海岸を巡覧。
	7日	鳥取藩主 池田(松平)慶徳も乗船し、紀州加太に向かう。鯨船で友ヶ島に上陸し砲台を見学。 迎いの朝陽船が来ないため、加太に上陸し飢えをしのぐため淡嶋神社に入る。朝陽船が来たので直ちに乗船。
	8日	大坂へ帰坂。土佐藩数人(望月亀弥太、千屋虎之助、高松太郎)が勝海舟門下生となる。
	9日	鳥取藩大坂蔵屋敷を訪ね鳥取藩主 池田(松平)慶徳と海軍や警衛について話し合う。
	11日	大坂から兵庫へ。(坂本龍馬ほか門下生も同行)
	13日	兵庫を出帆し、江戸へ向かう。
	15日	下田港へ。土佐藩山内容堂を訪れる。(坂本龍馬脱藩罪の免除を依頼)
	21日	順動丸にて兵庫港に向けて出帆。
	28日	兵庫港着。
	29日	湊川へ上陸し午後には大坂へ到着。
	2月	3日
4日		帰坂。
5日		大坂城代 松平伊豆守信古が船を見学。
6日		江戸に向かうため出帆。
10日		品川に到着。
24日		大坂に向けて出帆。
26日		夕方、大坂天保山沖に到着。
27日		旅宿 順正寺(大阪市福島区)に入る。
28日		砲台の設置場所が決定。(まず和田岬、湊川、西宮、天保山沖)
30日		兵庫へ。和田岬および湊川の砲台場所を定める。

3月	1日	西宮砲台場所を定める。船で大坂へ帰坂。大坂の寓居先を専稱寺(北溜屋町)に定める。坂本龍馬、新宮馬之助が来訪。
	7日~8日	上京。
	9日	帰坂。30日まで大坂に滞在。
	17日・18日	松本良順来訪。
	27日	紀州藩へ出張する旨の書付を送付。
	28日	長州藩 井上聞多、山県半蔵来訪。
	29日	長州藩 山県半蔵、桂小五郎来訪。その後大坂城代屋敷を訪れ、大坂城代 松平伊豆守信古および宇和島藩 伊達宗城と面会。
	30日	紀州和歌山へ向け出立。岸和田で宿泊。
	4月	1日
2日		紀州加太で宿泊。迎いの紀州藩 高木儀右衛門と会う。友ヶ島奉行 酒井伊織来訪。
3日		和歌山に到着。福島屋(清水平右衛門)邸を寓居先とする。夜になり紀州藩御用人 向笠三之助、書物方・津田楠左衛門来訪。友ヶ島防禦、砲台について議論する。
4日		紀州藩伝法の別館(伝法御殿)を訪れ、紀州藩 久野丹波守、岡野平太夫、佐野出羽守ほか海防掛り数人と友ヶ島防禦について議論する。また海軍の必要性を強調する。4月6日友ヶ島砲台を視察することを約束する。
5日		和歌山城へ登城し、紀州藩第14代藩主 徳川茂承に拝謁。その後、加太へ移動し加太で宿泊。
6日		紀州藩の役人数人とともに友ヶ島砲台を視察。その後和歌山へ戻る。
7日		乗馬にて和歌山市中、紀ノ川の川口を見学。
8日		鯨船にて和歌山紀ノ川口より加太へ移動。加太で宿泊。
9日		友ヶ島、母江城崎の砲台を視察。位置について議論する。
10日		和歌山に戻り伝法の別館(伝法御殿)にて、久野丹波守と面談。友ヶ島砲台、海軍のことを話し合う。坂本龍馬が大坂より福島屋に到着。
11日		12日和歌山を出立する旨を報告。藩主より白銀・忍冬酒を賜る。坂本龍馬より江戸の近況の報告を受け、大久保忠寛の手紙を龍馬から受け取る。
12日		紀州藩数人来訪し、海軍稽古について話しをする。
13日		夕刻、紀ノ川口より大坂に向けて出帆。
14日		午前、大坂に帰坂する。
28日	堺まで順動丸で移動。堺から将軍徳川家茂が乗船。紀ノ川沖で一泊。姉小路公知が長崎周りの蒸気船で加太に到着。	
29日	明け方加太に到着。加太に上陸。友ヶ島へ向かおうとするが悪天候のため大坂へ戻る。	

